



紺碧

調布稲門会 会報
2014.6 No.40号
事務局 調布市若葉町2-22-10
元木 勇 気付
Tel 03-3300-4554
Fax 03-3300-8728
編集責任者 五十嵐真 高原浩

組織改革・活性化に向けた活動計画など決議——第33回総会 70余人が参集、懇親会和やかに人の輪広がる

会報「紺碧」担当幹事 高原 浩 (昭44法)

2014年度(平成26年度)調布稲門会第33回総会が5月25日午後2時から、調布市文化会館たづくり12階大会議室で会員・準会員、来賓、ゲストあわせて70余人が参集して盛大に開かれました。活動計画など総会議案の決議と新入会員の紹介、来賓挨拶の順で議事は粛々と進行し、総会後の記念講演(講師元朝日新聞政治部記者草鹿惠氏、講演要旨は別稿)では歴代首相との交流話等に会場

は沸き、さらに懇親会では初の試みとなる各種料理の屋台サービスを全員で楽しみながら、会場は終始和やかに人の輪が広がり話に花が咲きました。午後6時半、全員で校歌を斉唱して今年の総会はお開きとなりました。

総会はまず新たな物故者5氏(河合一成さん、中村俊一さん、塩澤誠さん、神谷昌利さん、末武正美さん)に対し全員起立して黙祷を捧げました。ついで挨拶に立った元木勇会長が「会員数は210人強だが、年々会員の高齢化が進み残念ながら若干の減

少傾向にある。今後は新規会員獲得と同好会の活性化にもっと努力していきたい」と述べました。2013年度の収支報告では石井宏和会計担当幹事から「会費未納者増もあって収支のやりくり

に苦労した。今回初めて校友会からの補助金を得た何とか息をついた」との説明があり、また2014年度の予算は財政健全化と活動活性化(諸費用の削減と新規会員の獲得策等)をこれまでで

以上に意識した内容になりました。財政健全化とあわせ、組織改革・活性化も喫緊の課題なため、それに対処する「活動方針・活動計画」を議案にまとめ総会で決議しました。特に8項目にわたる具体的な「活動計画」を今回初めて設定し、従来活動のほか、「会員相互のコミュニケーション強化活動」「会員増強活動」「女性対象の入会企画」「IT技術の導入」など調布稲門会の活動に新風を吹き込むことになりました。

今年の総会では初めて、調布市在住の現役学生向

33回調布稲門会総会



けに「調布稲門会総会講演会等のお誘いのお知らせ」を本部校友会から事前に一斉メールしてもらいました。その結果、文化構想学部4年の大沼稔さん（国領町在住）が呼びかけに応じて参加してくれました。

「嬉しいですね。来年はもっと多くの学生さんに来て欲しい」と関係者一同喜んでいました。

第2部の記念講演には草鹿 恵氏（昭35政経、元朝日新聞社取締役西部本社代表）をお招きしました。

「政治・思い出の人々」の演題で1時間にわたり、草鹿氏個人の意外なひととなりや政治記者時代に経

験した歴代首相との人間味溢れる交流話を披露して頂きました。

第3部の懇親会は来賓を代表して長友貴樹調布市長にご挨拶を頂いた後、全員で乾杯して始まりました。初登場の料理屋台で職人さんが切り分けてくれる北京ダックなど盛り沢山の料理に舌鼓を打ちながら酒盃を重ね、参加者は満足気な様子でした。今年はアトラクションとしてDVD「校歌100年都の西北の謎」（30分）が舞台上の大スクリーンに投影され映像と音声で雰囲気盛り上げました。

講演「政治・思い出の人々」——元朝日新聞社取締役西部本社代表

草鹿 恵（くさか めぐむ）氏

要約 柵木 真也（昭59政経）

昭和35年に早稲田を卒業し、4月から朝日新聞に入り、39年末に池田内閣が倒れて佐藤内閣が発足し、一年半くらい経ってから政治部に入りました。鈴木内閣まで首相を6代、期間にして13年、政治部一筋でやってきました。この8月に80歳になる。佐藤栄作氏が亡くなったのが74歳、田中角栄氏が75歳、大平正芳氏が70歳ですから、私も少し長く生きすぎているかなと反省しています。



日本の統治機構を動かしている要素の中で人のつながりが大変重要視される。今で言えば絆というそうですが、私の父は石川県の出身で、先祖は加賀前田藩の中で一番小さい大聖寺藩の家老格みたいなことをして、学者だったようです。私の祖父は明治早々にドイツに留学。帰国してからはドイツ語の先生をやり、教え子からは東大や京大に行く人が沢山出たわけです。草鹿は珍しい名前ですが、あの先生を先祖に持つ人かと思われることが多かった。夜回りは、新聞記者は駆け出しの頃からさせられる。駆け出しの記者は夜8時半頃から、政治家の家に行ってその帰りを待っています。政治家が帰宅すると、初めての場、「君は出身はどこか」と必ず聞かれる。東京と言うとつまらなそうな顔をされる。そういうことをしているうちに、あっそう

かと思って、地方都市の名前とか、川の形状とか、どういう気候かを調べて、夜回りの準備をする。そうすると話の接ぎ穂が出てくる。話の接ぎ穂は大事なもので、幸いなことに私の場合は石川県だけではなくて、おじに2人、海軍軍人（編集部註：草鹿任一中将、草鹿龍之介中将）がいて、当時はまだ海軍から帰ってきて代議士になった人が沢山いて、いろいろな話をするうえで、大変役に立ってきた。おじの一人（編集部註：任一）は、山本五十六が最後に搭乗した飛行機を見送った司令長官で、山本さんを死なせたことに大変心を痛めていたようです。山本さんの遺骨や遺品をどうしても探したいということで運動していた。その頃、私は田中番をしていて、そのおじが私のところに「ちょっと頼みたいことがある」と言ってきた。「何か陳情でもするのですか」と聞くと、「ブーゲンビルに行って山本さんの遺品収集をしたいが、お金がない。あまりにストレートな話で少しぎょっとして、「私の立場は、お金の話を取り次ぐわけにはいきませんよ」と言ったところ、「それは分かる。ただかせてくれさえすればいい」。どうしようか随分考えた。正直に田中角栄氏に、人のいないところでありのままに話しました。開口一番「君は朝日の記者だ。そういうことはやってはいけない。おれが会ってちゃんとおじさんと話をするから。明日の朝、ここに来てくれるように言ってくれ」。ここというのは目白の私邸です。翌朝、目白の田中邸で待っていると、おじが玄関に現れ、奥に通された。5分もたたないうちに、「おじさん、頑張ってください」という田中さんのしゃがれた声が聞こえてきた。その後、田中さんと朝の懇談で会いましたが、知らん顔をしてくれた。2、3日後、おじさんから連絡があり、何と言われたか聞くと、「これは私がやらなければいけないことだ。おじさんにこんな苦勞をさせてすみません

ね」と言って「わずかですが」とお金をわたしてくれた。金額は当時で300万円、びっくりした覚えがある。そのお金をもらってブーゲン

ビルに行くことができ、密林をかき分けて墜落した搭乗機を引き上げた。田中さんはその後、そのことを誰にもしゃべらなかった。

探索・利用する楽しみ満載——ワセダキャンパスの魅力

五十嵐 眞 (昭37理工)

早稲田の構内の銀杏の緑が濃くなってきました。大学は知性と文化のセンターです。校友会誌にもあるように、卒業してから母校の本当の利用価値が出てきます。最近早稲田大学オープンカレッジに週1回通うようになってから、利用すべきところ、楽しむべきところが数多くあるのに気が付きました。

楽しむべき第一はキャンパスそのものでしょう。今構内を歩いてみると両側の銀杏が四季の色を楽しませてくれると同時に、路の幅が絶妙で散策の快適なリズムを与えてくれます。建築科を創設した佐藤功一がそれまでの左右対称、閉鎖的な慣習を破り大隈講堂をメインストリートに45度の角度にして街へ開かれた大学としています。長い歴史を経て、本郷の東大や三田の慶応と比べて抜群のまとまりと美しさがあります。

さて中央図書館ですが、1882年の東京専門学校図書室設置以来125年の歴史と国内大学では有数の規模を誇っています。現在の図書館は、昔の蔦の絡まる趣のあった建物(現會津八一記念博物館)から安部球場跡に移転したものです。広さを活かし大規模で機能的なものになっています。その一角に二つの胸像と碑がたたずんでいます。正面が早大野球部初代部長の安部磯雄、その脇に立つのが早大野球部を長期間指導した飛田穂洲で、碑は「ここにかつて野球場があった」で始まり経緯を伝えています。戦前は戸塚球場の名で知られ、戦後は安部球場と名を変えたこの球場は、数々の歴史を秘めています。

日本最初のプロ野球リーグの第一戦も、ここで開催され、学徒出陣壮行試合として開催された「最後の早慶戦」も、ここで行われました。私も子供の頃

ここへ早大野球部の練習をよく見に来ました。

野球場の碑の反対側の階段を上ったところが図書館入口です。ひさしにラテン語が大きく書かれています。“QUAE SIT SAPIENTIA DISCE LEGENDO”(知恵の何たるかを読むことによって学べ)、ローマ時代の政治家カトー(Cato)の息子への教訓だそうです。ドアを入れて左側が閲覧室、右側に展示室や小さなレストランがあります。閲覧室には、ゲートがあり早稲田カードで入れます。オープンカレッジの受講者その他関係者もOKです。



五十嵐 眞画

図書館ですから書架と閲覧机がズラリとならんでおり、自由に書架の本が読めます。机は8人くらいで使える大きなものですが、土曜日の午前中ならほとんど空いており、一人で占有できます。図書館ならではの大きな地図や辞書類の利用から昔読んだ小説の読み直しや昼寝まで利用は自由です。万卷の書をかたわらに窓の木々を見ながらゆったりと過ごすのはまさに至福の瞬間です。

QuonNet「調布稲門会」を活用しましょう

岡田 文男（昭49理工）

QuonNetは校友向けに提供するオンライン・サービスとして2009年にスタートしました。稲門会の名簿管理機能、宛名ラベル自動作成機能などを活用して、団体幹事が事務作業にかかる手間を軽減できるということです。調布稲門会ではまだ会員のメールアドレス情報が完備せず、すべての機能を十分に発揮するに至っていません。そこでまずは会員にメールアドレスの情報提供を依頼するとともに、会員同士の活発なコミュニケーションを図ることを目的にQuonNetを活用していきたいと思えます。稲門会の運営、同好会の活動等においてイベントの開催案内、開催報告、写真アルバム、配布資料、議事録等の「情報の共有の場」としては活用できるシステムです。

会員のメールアドレスが完備されていくにつれて活用価値も高まるものと確信しています。手始めに調布稲門会のトップページを作成しました。機関紙

「紺碧」バックナンバー、幹事会の開催案内、同好会のイベント案内等情報を発信することができます。まず幹事会メンバーを対象に試行し、内容の充実を図ります。さらに同好会メンバー、一般の方々へと広げていくつもりです。

今回の総会（第33回）案内状の往復はがきではメールアドレスを記入、ご連絡して頂けるようお願いしました。また今回、Eメールを使用している方は下記の調布稲門会メールアドレス宛てに「お名前」と「メールでOK」と発信して下さいようお願い致します。メールアドレスをご連絡頂くと、QuonNet「調布稲門会」から“招待メール”を発信しますので、どうぞご登録をお願い致します。

調布稲門会メールアドレス：toumonkai@gmail.com
QuonNet 同窓会機能 (<http://www.w-as.jp/alumni/>)
をご参照願います。

「世界に飛び出せ!!」今年の稲門祭は10月19日――実行委員会報告

芦沢 友雄（昭49理工）

2014年度第1回稲門祭実行委員会が4月9日に開催され、調布稲門会を代表して岡田文男幹事と私の2人が出席しました。「稲門祭」は早稲田大学校友会公認の稲門祭実行委員会が主催する「校友の校友による校友のための祭典」です。毎年、大学主催のホームカミングデーに合わせて開催し、学部・学科、ゼミ、同好会、クラブ等の校友の再会、交流、親睦の場となっています。キャンパスを中心にさまざまなイベント・福引抽選会・模擬店出店を行い、ホームカミングデー対象者をはじめとしたすべての校友とそのご家族、近隣にお住まいの方々や早稲田ファンの方々など、どなたでもご参加頂けるお祭りです。

今年は「世界に飛び出せ!!WASEDA: Leap Ahead Globally!」のテーマの下、10月19日（日）に開催

されます。卒業後、15、25、35、45、50年目の校友が母校に招かれます。今年のホームカミングデーの対象年度は、1965年、70年、80年、90年、2000年の卒業生です。ぜひ母校まで足を伸ばして、ホームカミングデーの式典後、稲門祭に参加下さい。

稲門祭ではオリジナルの記念品を販売しています。昨年はその収益金1200万円余りを寄付し、34人の学生に「校友会奨学金」として付与されました。調布稲門会ではここ数年、奨学金の形で寄付をしてきましたが、今年は久々に記念品販売で貢献することになり、5月25日の総会では販売コーナーを設け、記念品を販売しました。

稲門祭当日は大隈庭園内で三多摩支部の模擬店「サロン・ド・三多摩」に参加し、お茶のペットボ

トルを提供しています。例年、菰樽の樽酒が振舞われています。もう一つの楽しみは抽選会です。記念品には福引券が付いており、自動車、家電製品など豪華賞品が当たるかもしれません。調布稲門会では福引の景品の「ふるさと賞」として深大寺そばを提供しています。抽選は当たっていても、当日会場に

居ないと当選したことにならないので、記念品を買われた方は当日参加して頂き、午後3時から大隈講堂で行われる抽選会をお楽しみに。

我らの同好会活動のコーナー

奥多摩—多摩川の清流沿いを歩く (ワングル同好会)

代表 石倉 毅 (昭36理工) 天野凡子 (昭和56文)

今回のルートは青梅市を流れる多摩川の清流に沿った遊歩道を、JR青梅線御岳駅～沢井駅間1.8kmの散策と、川合玉堂美術館を訪ねる行程を計画しました。当日4月6日(日)の天気予報は「風強く、所により小雨、小雪、雷雨」などと悩ましいものでしたが、定刻には予定の全員(8人)が集り、誰一人異を唱える者なく現地を目指してスタートしました。幸い天候は予報に反し、たまに小雨が降る程度で傘は不要でした。この地の桜は当日が最高の見頃と思われ、散った花びらなどは全くありませんでした。昼食は御岳駅近くの蕎麦屋(合掌作りの古民家を移築した風情ある建物)で。

午後から多摩川の清流に架かる御岳橋の袂にある川合玉堂美術館を訪れる。昭和19年、玉堂71歳で当地に疎開し84歳で没するまで創作活動を続けたのを記念し建てられたもの。展示されている作品は数多く、年に7回その作品を展示替えしています。画伯が小学生のころのスケッチブックは天才的なものを感じさせます。

余韻を残して沢井駅に向かって遊歩道を進みました。霞が懸かった景色はまるで玉堂の絵の中に居る様です。当初の予定にはなかったのですが、沢井駅近くの酒造メーカーの工場で見学が可能とのチラシがあり申し込んだらOKとのこと。全員で見学することに。当日は日曜日で製造ラインは止まっていたのですが、ガイドの説明で約40分見学できました。見学の最後に頂いた日本酒は大変美味でした。やはり酒米、麴、水等が品質の決め手のようです。

今回のワングル催行についての反省点ですが、4月上旬は時期的に「花粉症の方は敬遠する」「年度初めで多忙」ということです。参加者が少なめだったのはそのためと思われます。

今回の参加者は以下の8人です。(敬称略)

芦沢友雄、岡田文男、川島義幸、白川準一、松野宏、大谷裕子、石倉毅、天野凡子

満開の桜の下、1年ぶりに14人でコンペ (ゴルフ同好会)

代表 安松 董矩 (昭37教育)

私どもゴルフ同好会では「同好会単独コンペ」と「三田会との合同コンペ」を春と秋に各々2回ずつ年4回のコンペを開催しています。平成25年の春は4月に武蔵野ゴルフクラブで単独コンペを、続いて5

月にレイク相模CCで合同コンペをそれぞれ開催しました。一方、秋はダブル台風の急襲と強雨に見舞われ、大変残念なことに単独・合同コンペ共に中止せざるを得ませんでした。



平成26年は4月8日(火)にレイク相模CCで単独コンペを開催し、今年度の活動をスタートさせました。前年春以来約1年ぶりとなるこの日は初参加の平松勲さん(昭49商)と石田欣也さん(昭55商)の二人を迎えて総勢14人のコンペとなりました。天気にも恵まれ、これ以上望めないほどの雲一つない爽やかな青空が広がり、まさに絶好のゴルフ日和でした。今年は桜の開花が例年に比べ早目だったこともあり、東京の桜は満開の時期を過ぎていましたが、山梨にある当ゴルフクラブの桜は丁度満開を迎えており、ゴルフと桜を同時に楽しむことができた一日でした。スタート前、キャディマスター室前に全員が集合、幹事から初参加の二人の紹介があり、続いて平松さんと石田さんの自己紹介、競技規則、賞などの説明のあと、写真撮影をしました。ラウンド中

も好天が続き、ゴルフの調子に個人差はあるものの、皆さん気分よくプレーをしていた印象を受けました。競技終了後の表彰式はコンペルームではなく、日当たりのよい明るいレストランで行いました。栄えある優勝は芦沢友雄さん(ネット69.8)。ニアピンを3つも獲得するなど見事な優勝でした。準優勝は初参加の平松勲さん(72.6)、ゴルフ歴は30年以上とのことで、かなりの飛ばし屋とお見受けしました。3位は香山弘之さん(73.2)、普段練習をしていないとはとても信じられない安定したショットをしていました。惜しくも入賞を逃がした皆さんも、表彰式ではゴルフ談義に花を咲かせて盛り上がり、賑やかなひとときとなりました。

次回、秋の単独コンペは、調布に近い桜ヶ丘CCでプレーをしたいとの提案があり、同クラブのメンバーの山本建治さんにお世話頂くことになりました。普段はなかなかプレー出来ないゴルフ場ですので今から楽しみにしているところです。今回参加された方、また残念ながら参加できなかった方も秋のコンペの参加をお待ちしています。またゴルフ同好会に入会されたい方、ゴルフを始めたい方いつでもウェルカムです。ご一報下さい。

「ウズベキスタン講座」と新企画「ミャンマー講座」へご参加を

「語ろうアースカフェ」世話人 山田 和子(昭49文)

昨年10月開講の「マシフラさんのウズベキスタン講座」(全6回)も残り1回(7月7日)となりました。回を重ねるごとに参加者が増え、6月2日現在の登録者は97人です(調布稲門会メンバー53人、一般44人)。その他学生も参加しています。第4回講座(4月7日)当日は、午前中にウズベク料理講習会(9人参加)を行い、オシユ(炊き込みご飯)とトヴク シュルヴァ(チキン入りクリアスープ)を作り、午後の講座参加の皆さんには料理講習会で調理したオシユの試食をして頂きました。

第5回は「ウズベキスタンの歴史と現状“光と影”」、(6月2日)、第6回は「ウズベキスタンの経済“一

次産業主体からの脱皮”」(7月7日)のラインナップです。また講座参加者の要望により、ウズベキスタン旅行(8月29日～9月5日)も企画しました。訪問先の一つタシケントではウズベキスタン講座の講師マシフラさんのご両親宅の訪問も計画しています。

講座の第2弾として「ミャンマー講座」開設も決定しました。全四回、第1回「ミャンマーの概況」(10月25日)、第2回「ミャンマーの伝統と文化」(11月8日)、第3回「ミャンマーの日常生活」(2015年1月10日)、第4回「ミャンマーの最新情報と将来の可能性」(同2月14日)、いずれも土曜日の午後6時～8時。講師は東京外国語大学大学院修士課程のト

ウカアウンさん、会場は調布市文化会館たづくり 8
階映像シアターです。費用は毎回 1,000 円。問合せ
先・申し込み先は私、山田和子まで。

電話/Fax : 042-488-0741
Email : kazuko.yamada@jcom.home.ne.jp
ホームページ : [kataroearthcafe](http://kataroearthcafe.com)

会員情報――6人の方が新規入会

前 39 号 (2014 年 1 月発行) 掲載分の後、6 人の方が新規加入されました。新会員の氏名、卒年・学部、加入時期は下記の通りです。(敬称略、入会順) 現会員数は準会員を含め約 210 人です。

中山 忠夫 昭 44 法 2014 年 1 月
宮本 正章 昭 50 院理工研 2014 年 3 月
三宅 民夫 昭 50 政経 2014 年 4 月
春山 正樹 昭 45 政経 2014 年 4 月
野村真知子 (準会員、野村大也会員) 2014 年 4 月
山本あおい (準会員、長女 教育 4 年) 2014 年 4 月

会員近況――ひと言

第 33 回総会への案内はがき返信 (元木勇会長宛て 出欠通知) に記載された「近況」欄の中から編集部が任意でピックアップしたものを紹介します。(敬称略、卒年順)

大道 信敏 (昭 16 商) 三鷹吟詠大会の出席のため (今回は) 欠席します。

林 貞夫 (昭 25 法) 元気です。米寿を迎えました。

小林 耕一 (昭 29 二文) 高齢化した組織を維持していくのは骨が折れますが、前向きで何かをやっていきましょう。

川島 義幸 (昭 34 商) 夫は「キョウヨウ」(今日用) と「キョウイク」(今日行) で忙しく過ごしております。妻はスイジ、センタク、コーラス等々で忙しく過ごしています。夫は毎日感謝しています。

中野 完二 (昭 35 文) 調布太極拳同好会 30 周年記念大会、祝賀会ご出席ありがとうございました。(今回は) 太極拳の福島県支部総会・研修会に招かれていますので欠席します。

鈴木 光孝 (昭 41 商) 今年は隅田川沿いの満開の桜を楽しみました。東京の新名所のスカイツリーも桜と一緒に見ることが出来て最高でした。

伊賀上 武 (昭 42 文) あいにく (総会) 当日はニューギニア・ブーゲンビル島にいます。11 回目の戦跡巡りです。

松野 宏 (昭 43 教育) 以前、調布市の国際交流協会で日本語教師のボランティアをしていましたが、今回思いがけなくもカナダ人である教え子より結婚式の招待状を頂きました。

中山 忠夫 (昭 44 法) 山に行っています。昨年は残雪の蝶ヶ岳、夏の雲ノ平、秋の仙人池などです。温泉は高天原温泉、仙人温泉などです。

伊藤 悦子 (昭 49 文) テニスが趣味で、今回稲門会テニスにも入会、テニスの機会が増えることが喜びです。昨年 12 月、2 回目のホノルルマラソンを何とか完走しました。

三宅 民夫 (昭 50 政経) 5 月 31 日夜放送予定の NHK スペシャルを抱えていて総会当日の予定がどうなるか分からず、欠席でお返事させて頂きました。

神谷 恭司 (昭 50 政経) 長崎県松浦市に単身赴任しています。

宮本 正章 (昭 51 院理工研) 国士館大理工学部に勤務して 2011 年 3 月、70 歳で定年退職し現在、名誉教授で好きな油絵を描いたりして楽しんでます。このたび入会させて頂きました。よろしく願い致します。

野部 肇 (昭 53 政経) 税理士を渋谷でバタバタとやっております。3 月決算 5 月申告で忙しくしており (今回は) 出席できず申し訳ありません。

有賀 一衛 (平 9 法) 子供が幼稚園の年中となり、いろんなことに興味を持って、日々一緒に動き回っています。

(各同好会の代表者と連絡先)

囲碁・将棋：	大谷 暢廣	042-481-0202	社交ダンス：	元木 勇	03-3300-4554
	早川 政夫	042-487-9610	太極拳：	中野 完二	042-485-0523
カラオケ：	小笠原 忠八郎	042-481-6867	麻雀：	濁川 寿次	042-483-6966
硬式テニス：	山本 建治	042-482-6049	ワングル：	石倉 毅	042-487-4750
ゴルフ：	安松 董矩	042-488-5726		天野 凡子	042-480-2503
フラダンス：	大谷 裕子	042-485-7489	食・歩会：	山田 和子	042-488-0741

<編集後記>

今年の総会は無事、盛会裏に終了、総会を準備した関係者一同、ほっとしています。参加者の皆さんには心より感謝致します。調布市在住の現役学生さんが初めて総会に参加してくれたのも特筆される出来事でした。それから「紺碧」に何度か記事で登場して頂いた調布・早大出身の元関取「皇風」さんが引退とか。残念です。残念ついでもう一つ。今 40 号をご覧の方はもうお気づきでしょうが、「紺碧」は今号からモノクローム印刷に変わりました。会の財政再建策の一環です。ご容赦下さい。色彩豊かな素晴らしいカラー写真もいいですが、レトロ風のモノクロ写真も風情が感じられます。(高原記)

『紺碧』原稿受付 e メールアドレス：h-takahara@almond.ocn.ne.jp

<p>相續を争族にしないために、公正証書遺言をお勧めします。</p> <p>行政書士堀内綜合法務事務所 行政書士 堀内正之 〒182-0035 東京都調布市上石原三、十二、八 電話・FAX ○四二、四九九、一三〇〇 HPは「調布」行政書士 堀内にて検索</p>	<p>桜田倶楽部 東京テニスカレッジ 会長 秋山 一 住所 〒182-0017 昭和22政経卒 東京都調布市深大寺元町二、三三、一 電話 ○四二、四八二、二二〇九</p>	<p>深大寺そば 創業文久年間 ～宴会・俳句会・御法事 元祖 嶋田家 住所 〒182-0017 東京都調布市深大寺元町五、十二、十 電話 ○四二、四八二、三五七八 FAX ○四二、四九九、六六五五</p>	<p>旭化成建材(株)指定工事店 外壁塗装・屋根塗装 株式会社住まいるスズキ 代表取締役 鈴木光幸 〒182-0023 東京都調布市染地三、五、六五 電話 ○二〇、〇八〇、二四二二</p>
<p>林建設株式会社 取締役社長 林 清一 住所 〒182-8512 東京都調布市小島町二、五六、三 電話 ○四二、四八六、一一一一 FAX ○四二、四八六、一一二〇</p>	<p>新しい食文化を創る 株式会社山田屋本店 代表取締役社長 秋沢淳雄 住所 〒182-0024 東京都調布市布田三、一、一 電話 ○四二、四八二、四五八五 FAX ○四二、四八二、四五七二</p>	<p>早稲田大学商議員 早稲田大学調布稲門会 会長 元木 勇 自宅 〒182-0003 調布市若葉町二、二二、一〇 電話 ○三、三三〇〇、四五五四(代) FAX ○三、三三〇〇、八七二八</p>	<p>宿泊・宴会・婚礼 調布クレストンホテル 住所 〒182-0026 調布市小島町一、三八、一 調布バルコ8510F 電話 ○四二、四八九、五〇〇〇 FAX ○四二、四八九、一一〇六 http://www.crestonhotel.jp</p>